

総務企画防災常任委員会行政視察報告書

大須賀 幸雄

○愛知県岡崎市

・平成20年8月末豪雨災害後の防災対策の取り組みについて

【所見】

平成20年8月28日から31日にかけて岡崎市を襲った豪雨は、29日の未明に観測史上最大の一時間当たり146.5ミリメートルとなった。

岡崎市は全市域（約14万世帯、37万6,000人）に避難勧告を出した。各地域の総代50人に電話連絡をし、担当地域の全市民への通達を依頼した。しかし、避難勧告の発令が深夜であったために総代から全市民への連絡は届くはずもなく、降水のピークであった深夜1時台を過ぎて道路は冠水し、避難所まで向かう危険性などから、実際に避難所へ避難した人はたったの51人だったという。市内で床上床下浸水となった家屋は3,365棟にも及んだという。

その後市は「岡崎市水害対応ガイドブック」という立派な冊子をつくり、大雨のときの市民の対応の仕方、普段からの心構えを詳細に記述し、最近の雨の降り方が変わってきていることを説明している。また、各地区に出向いて説明会を開き、その地区ごとの浸水被害の予測を地図で示し、避難場所を浸水予測ごとに表記している。

また、興味深かったのは地区ごとに水害に対するハザードマップをつくったということである。水害発生時の初期段階で気をつけること、とるべき行動などを住民が参加して作成したそうである。

地震への備えとしては防災ガイドマップを作成し、身近な避難場所、コンビニや公衆トイレの位置、さらには最近足利市内でも関心を持たれているブロック塀の位置や、高圧送電線なども記されているもので、これらを作成する各段階での住民参加が、市民の意識向上に役立つ特に重要なポイントであろうと感じた。

・斎場整備事業について

【所見】

2年前に供用開始された斎場は郊外の静かな丘陵地帯にあった。そこでまず知らされたのが葬儀に関する各地での風習の違いである。この両毛地区では火葬中に故人に水を手向け続ける風習がある。しかしこの岡崎市にはそんな風習はない。よって火葬炉の前に水をくむ設備はない。

施設が新しいため各所に学ぶべきことは多いが、新しくできる足利市の斎場には足利の地に根づいた葬儀のあり方、特に通夜・葬儀を簡素に行える現在のよ
うな式場を備えた斎場とすべきであると強く思った。

また斎場とは別の問題であるが、隣地にある広大な墓地「岡崎霊園」である。
1万2,000区画を超えるそうである。足利市には市営墓地はなく、近隣でも太田
市にあるが他市には大規模な公営墓地はないようである。足利市でも市営霊園を
計画してはいかがだろうか。

○神奈川県秦野市

災害時等行動マニュアル策定の経緯と対策訓練の実施及び検証について

【所見】

大規模災害時に、議会・議員がどう動けばよいのか。災害時の行動マニユア
ルを作成し、議会の統一した行動指針を定めることは有意義であり、足利市でも
足利市議会災害時BCP（業務継続計画）を策定し、条例化したばかりである。

市の災害対策本部に協力することは当然であるが、各議員が行政に対し、地
元への対応を強要することのないようにすることが大切である。議員として市全
体を考えることはもちろんであるが、地域の一員として住民の安全確保と応急対
応に当たる必要がある。この視察の際にも視察先の説明者から出た、「地
元の対応を強要することがないようしなければならない」との言葉にうなずい
た。同様の話は岡崎市でも聞いた。

文章化されたものをどこまで行動基準として遵守できるか。一度は予告なし
の実施訓練を行ってみる必要があるだろう。そして市の防災計画との整合を図る
ための見直しは随時行う必要があると思う。